

妹JKチアガールのおちんぽ応援♪
「おちんぽ頑張れ♪おちんぽ頑張れ～♪」

「おつはよ――――――！ お兄ちゃん―― 今日もい
い天氣で絶好の登校日和だね！！」

「今日も一田元氣にい」「つ――――――つて、お兄ちや
ん？ まだ布団の中で寝てるの？？」

「んもう……学園の先生なのに教え子より起きるの
が遅いなんてダメだよ？」

「そんな寝坊助さんには……つてりや――――――」

「あはははは―― お兄ちゃんつたら、グエッ！
だつて♪ ひかれたカエルみたいで面白い♪」

「ねえ、嬉しい？ 嬉しい？ えへへへ♪ 「うん
な元氣で可愛いJKに起」してもらひえるんだもん♪
嬉しいに決まってるよね♪♪」

「おばさんからも、お兄ちゃんは寝坊助さんだか
ら、起こしてやつてくれつて言われてるんだから
♪ 「これからも毎日起」してあ・げ・る♪」

「（小声で独り言を呟くよ）」それに、お兄ちゃん
の朝一番の寝顔がみられるし……誰よりも先にお
兄ちゃんとお話したいし……」

「……ふえ！？ あ、い、いや、何でもないよ！
うん、何でもないから氣にしないで！」

美夏

「つて、あ、ちょっと！ お兄ちゃん！ 今お布団に戻ろうとしてるでしょ！ ああ！ 待って待つて！ せっかくチア部の朝練前に起こしに来てあげたのに！ つて、ちょ、ちょっと！ 本当にお布団被らないでよ～」

「む～、今日はなんだかいつもより強情だなあ……機嫌が悪いのかも……つて、あれ？」

「机の上、紙があんなにいっぱい……普段はパソコンでお仕事してるはずなのに……」

「そりいえば昨日お兄ちゃんの担当教科でテストがあつて……つてもしかして」

「お兄ちゃん、昨日の夜遅くまでテストの採点してくれたの？ それで今日はこんなにおねむさんなの？」

「はあ～～～んもう、それならやうと書つてくれればいいのに」

「お兄ちゃんは昔つから周りに隠し事しそぎだよ～」

「本当は誰よりも真面目で努力家で、人一倍頑張る素敵な人なのに誰にもその姿を見せようとしないんだから」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「もうもつと承認欲求があつてもいいと思つんだ
けどなあ」

「ん、なら、他の人の代わりにあたしがいっぱい、いっぱい、良し良しつて褒めてあげるね」

「お兄ちゃん……夜遅くまであたしたち教え子の為に、いっぱいお仕事してくれてありがとうね」

「アーティストは、アーティスト」

「なでなで♪ なでなで♪ あはは♪ お兄ちゃん、気持ちよさそうにもぞもぞして……なんだかちつちやな男の子になつたみたいで、可愛い

「頑張ったお兄ちゃん先生には、あたしから特別に、「」褒美をあげちゃいます♪」

「えへへ……」かわいがる かわい……」「かわい！」

「えへへ、頬つぺたにちゅ～しちやつた♪」

「あはっ、お兄ちゃんのお顔真っ赤♪ 田を閉じても恥ずかしがつてゐるの丸分かりだよ？ えへへ♪ 可愛い♪」

「(小声で独り言を呟くように) つてあたしもきっと
顔真っ赤になつてるんだろうなあ……うう、顔熱
くなつてきて恥ずかしい」

美夏

「（小声で独り言）でも、何だか今い
感じの雰囲気だし……せつかのチャンスだも
ん、もっと大胆に……」

美夏

「ほっぺの次は、お耳にもキス……してあげるね
♪」

美夏

「ん……んちゅ……れろ、ちゅっ♪」

美夏

「ちゅ……ん、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、
すうううう、ふうううう……はあ、ん、
ちゅ、れる、はあ、えらい、えらい、
ちゅ……頑張ってるお兄ちゃん、とっても素敵
だよ」

美夏

「……ちゅ……ちゅ……ちゅ……ちゅ……
ん……ちゅ……ちゅ……はあ……ちゅ
ぶつ……ちゅ……」

美夏

「ん……ぶは……はあ、ん……今度は、お耳に
舌を入れるよ……にして……」

美夏

「はあむ……れろ……んん……れろれろ……
ちゅ、んん、ちゅぶつ……れる……くちゅ……
れる、じゅ……じゅ……ばくぶつ……」

美夏

「れろつ……れろれろ……ちゅひふ、 ピリッ……お兄ちゃん、 気持ちいい? ん~ちゅふ、 いつぱい頑張ってるお兄ちゃんの、」豪美なんだから……お耳」奉仕、 堪能して♪」

美夏

「れろつ……んんつ、 れろれろ……くちゅ、 んん、 れろつ……おにいひやん、 んつ……くちゅ……れろつ……ちゅひ……ちゅくつ……」

美夏

「……おにーちゃんのお耳……おじしい……れろつ、 くちゅひ……れろれろつ……れろつ……ちゅひ……」

美夏

「毎日毎日、 んつ……ちゅひ……授業頑張つてくれて、 ありがとうね……れろつ……ちゅふ……ちゅひ、ちゅひ……」

美夏

「……はあ……んつ……んふつ……ちゅひ、 れろつ、 れろれろつ……ちゅひ……んふつ……ちゅひ……くちゅひ、 れろつ……んーちゅひ……」

「…」

美夏

「ん、 んんつ! ふはつ……はあ、 はあ……ふふふ
お兄ちゃんったらもじもじしちゃつて、 感じ
ちゃつてるの? 先生なのに、 お兄ちゃんなのに
♪ 教え子にお耳れられられて囁かれちゃつ
て、 気持ちよくなつてるのね?」

美夏

「ほ~りふ、 じつまでもやつぽ向いてないで、 じつ
ち見て♪」

「えくく……お兄ちゃんやうど」に向いてくれ

た

「それじゃ、」のままお兄ちゃんの首の腕を回して
「……」

1

「あはは、お兄ちゃんったら、あたしのおいぱいの中でも「♪♪♪」たりぬ♪」

「ほーーら、おひさまいだよーー♪ 現役JKおひさまいー
わわわ、わわわ、わわわわわわわわーー♪ わわわわ
わ、なでなでーー♪」

「どう?
あたしのおっぱいに顔をうずめた感想
は?」

「これでも校内で一番胸が大きくて綺麗つて、学園内で評判なんだから♪」

「ほーりん みんなが羨むJKねいぱいだぞー、そ
れそねー、黒恋の黒恋ー、黒恋の黒恋ー」

「」れば、今までいっぽい頑張ってきたお兄ちゃん
への「」褒美なんだから、遠慮なんかしないでいつ
ぱい堪能して♪」

「お兄ちゃんはす」「いね、がんばったね、えらい、えらい！」

「んっ、あんっ♪ お兄ちゃんのお鼻が、あたしの胸の先っぽ……乳首に当たつてえ」

「あっ、やっ！ ひやんっ♪ あうう……」れ、だめえ♪ 乳首刺激されて変な気分になつてきやつたよう……」

「……ん？ つて、あれ？ お兄ちゃん？ なんか足に硬いのが当たつてるんだけど……」

「もしかして、お兄ちゃん……おちんぽ、おつきくなつてる？」

「え、え？ お兄ちゃんつたら、教えてJKのおちんぽいでおちんぽおつかなくなつちゃつたの？」

「（小声で独り言を呟くように）や、やつたやつた！ お兄ちゃん、あたしの事女の子として意識してくれてるんだ！！」

「（小声で独り言を呟くように）恥ずかしかつたけど、お胸がもつもつしてよかつた♪」

「（小声で独り言を呟くように）それなり、」の調子で……」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「ねえ、お兄ちゃん。おちんぽ」のままだとお仕事にも行けないし、辛いよね?」

「だから、ね? 責任をもつてあたしがお兄ちゃんのおちんぽ気持ちよくひゅつひゅしてあげる♪それ♪」

「わあ、お兄ちゃんのおちんぽ、最後に見たのは随分昔だけど、あの頃よりすこし大きくて、大人の男の人って感じがするよ……」

「先っぽも真っ赤に膨れてて、とっても辛そう……お兄ちゃん、すぐ楽にしてあげるからね?」

「ん、おちんぽ……」のまま手で触つて……ひやわつ……? わつ、わわつ……? これ、すこし熱くて、硬くて、たくましい……♪

「でも先っぽはぱにっこして柔らかくて……本当に不思議」

「あ、おちんぽの先から何か出てきた……もしかして、これが我慢汁?」

「えへへ♪ これってあたしの手で触られるのが気持ち良かつたってことだよね?」

「んもう……おっぱいに顔埋めて隠れちゃつても、お兄ちゃんのおちんぽ見れば気持ちいいのバレバレなんだから♪」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「」のままじつぱじシコシコして、ぴゅつぴゅつ
わせてあげるね♪

させてもうかるな♪

「ん、」ういう感じでいいのかな」

「おちんぽの根本の方から先つぽの方に向かって、
しーー」しーー」つ、しーー」しーー」つ♪

「あんの～ ちよのじーか」すしただけでビクビク震えちゃうし、お兄ちゃんって敏感さんなのかな？ とつても可愛い～

美夏
「えへへ♪ 寝不足でもおちんぽ元気に勃起させ
て偉いでちゅね～」

美夏
カササギ

美夏

「ううん、おちんぽ気持ちよさうにしてるけど、射精するにはまだちょっと刺激が足りないのかな」「……」

美夏 「あ、ううだー！ それなら、おちんぽこじこしながらお兄ちゃんのお耳に失礼して……」

美夏 「んう、くちゅうりれるり、くちゅうぴくちゅう……ちゅうちゅうりんちゅうりれるり……れられろつ……んうちゅうりちゅうぱり……れられつ……くちゅ……」「……くちゅ……」

美夏 「はむ、んう……おにいひやん……じゅるり……ちゅ……ちゅう……んちゅう……れるれる……じゅるり、ちゅぱり……れる、んちゅうへ」

美夏 「ちゅう……ちゅう、ちゅうりう、ちゅぱり……はあ、はふうへ、えへへ、おちんぽシロシロとお耳ペロペロの回歩責め……んうちゅうへ、気持ちいいでしょ？ ちゅう……れるおつ……れられろ……ちゅう、ちゅうり……んう……じゅるり」

美夏 「もうと……んう、ちゅう……くちゅう……じゅるう……ちゅう……ちゅぱり……はあ……はあ……激しく……すりゅね……ふう……スウー」「……」

美夏

美夏

美夏
——んうふはう……はあ、はあ……お兄ちゃん、おち

「へへへへへりのうせの品」、男一醤のる品
んぽもう我慢できなれやう?」「

「いやあ、あたしのお母さんの中には、朝一番のお手
ちゃんミルク、いつぱいひゅひゅしちやおへ」

美夏 ——おちんぽこじゅう—— おちんぽこじゅう

「ほら、お兄ちゃん♪ 頑張れ頑張れ♪ おちんぽ
頑張れ頑張れ♪」

「おちんぽにたまつた精液、疲れと一緒に沢山
ひゅつひゅしちやえ♪

美夏

「それそれ♪ お兄ちゃん、おちんぽひゅつひゅ♪
おちんぽひゅつひゅ♪ お手手おまんこ♪ おち
んぽひゅつひゅひゅひゅひゅひゅひゅひゅ
ううーーー」

美夏

「あー、あやあやー、お兄ちゃんのおちんぽから精
液いっぱい出て……！ わ、わー！ ちょっと！
凄いー！」んな勢い強いなんて！ あ、やあ！
ダメー！ お手手から溢れる！ おちんぽミルク
溢れちゃうのーーー」

美夏

「あー、んー！ やー！ ダメ！ お兄ちゃん、我
慢しちゃダメだからねー、あたしの事なんて気に
しないで、このまま全部出してえ！ おちんぽ遠
慮なく気持ちよくなつてえ！」

美夏

「ほー、ひゅつひゅ♪ ひゅつひゅ♪ ひゅーひゅ
ー、ひゅーひゅー、びゅるびゅる、びゅるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

美夏

「えへへ、すいぐ沢山出してくれたね♪ 男の人
が射精すると「わなんて初めて見たけど、こんな
に凄いんだ」

美夏

「どう、かな？ これで少しは元気になつてくれ
た？」

美夏

「あたしは、お兄ちゃんが実はすいぐ努力家で頑
張り屋さんなことを知ってるから」

美夏

「だからもし頑張りすぎて疲れちゃった時は、遠慮なくあたしに甘えてくれていいんだからね♪」

「元気いっぱいになれるように、あたしがいっぱい励ましてあげるんだから！！」

「（小声で独り言を呟くよう）それに、あたしの胸に甘えてくれるお兄ちゃん、すつぐ可愛かつたし……また見たいな……お兄ちゃんの可愛いすがた♪」

「えへへ、ううん、何でもないよ」

「ほら、もうすつきりしたんだし、いい加減起きよ。じゃないと、」飯食べる時間がなくなっちゃう

「さ、今日も楽しい一日にしようね、お兄ちゃん
ん……」

◆トラック02

「うわっ、やっぱり屋上は風が強いな！」

「うう、あ————！ お兄ちゃんったら、職員室に

「んもう、何でいつもいつもお休みになつたりどつかいっちゃうのかな？」

美夏

美夏

「この前は体育館裏、さうにその前はグラウンド端の木の下……毎回探し回るあたしの事も考えてよね」

美夏 「え？ いつも職員室まで来て大きな声で喚きちらすつるさい奴のせい……つて、まさかそれ、あたしの」と…？」

美夏 「そんな言い方つてないでしょ！？ 貴重なお昼休みを使っていつも一人寂しくお弁当を食べてるお兄ちゃんの為にあたしという美少女JKが華を添えてあげてるんだから…」

美夏 「ここはむしろ感謝してしかるべきだと懇つんだよね？ ん？」

美夏 「ああー！ そんな露骨に嫌そうな顔して…！」

美夏 「いいもん！ お兄ちゃんがどこに逃げたって、あたしが絶対追いかけて」

美夏 「ん？ そんな」とさりともいいから要件はなんだって？」

美夏 「むむむ、せつかくお兄ちゃんにいい」と教えてあげようと思つて探しに来たのに……」

美夏 「あれ？ お兄ちゃんつたら黙つちやつて……もしかして“良い”と“が何か気になつちやつてる？”

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「えっくく、じりじよつかな、お兄ちゃんはあ
たしがお詫しに来るのが鬱陶しいんだよね~?」

「あたしはお兄ちゃんには甘々で優しいから~お兄
ちゃんの畠山通り邪魔にならないよ~」のまま教
室に帰っちゃおつかな~♪ おら、おら♪」

「う~、あ、あれ? お、お兄ちゃん? そ、そん
な怖い顔して近づいてきて……」

「あの~、~おんね? ちょ~と鞆子に乗つ
ちゃつただけでおちやめなジョークだつたの……
そ、そ~! 美少女JKの小糋なジョークだよ、
じょ~う~く~」

「何があつたかきちんと教えてあげるから、ね?
ね? だからさ、一旦落ち着~! ほら[可愛い教
え子に免じて、ね……?」

「う~、~やああ~! う~にやう~にや~!
お、お兄ちゃん! 頭ワシヤワシヤやめてやめ
て! セットした髪の毛くしゃくしゃになっちゃ
う~だからあ~!」

「ばかばかばかばか~!! 乙女の髪の毛を何だと
思つているのさ~! バカお兄ちゃん!!」

「う~、んも~!! も先とかはねまくつちやつて…
…あ~!! お兄ちゃん意地悪だよう……」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「あ～……なんか意地悪された後に「んな」というのも癪ではあるんだけど……」

「あのね、今日お兄ちゃんの授業があたしのクラスであつたでしょ？」

「それで友達が今日の授業範囲を塾で先取りしてたらしいんだけど、塾のベテラン先生なんかよりお兄ちゃんの授業の方がすつゞく分かりやすくて素敵な授業だったんだって！！」

「ふふふ♪ どう？ 嬉しい？ 嬉しい？」

「えへへへ♪ お兄ちゃんつたら少し口元がにやけてるね♪ あたしも嬉しくなつてきちゃうよお♪」

「だつてお兄ちゃんつたら、いつつもぶつきりぼうな顔してるせいでのんな話しかけづらそうにしてるけど、お兄ちゃんが毎日頑張つて生徒の為に沢山授業の準備をしてくれてる事、分かつてるんだからね？」

「お兄ちゃんはもつと褒められて当然の、あたしが大好きな自慢のお兄ちゃんなんだから♪」

「その」とをクラスの皆もだんだん分かつてきてくれてて、嬉しくなつちゃうの♪」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「(小声で独り言を呟くよつに) でもあたしだけが
知つてたお兄ちゃんの素敵な所を独占できなく
なっちゃうのは、ちょっと寂しいんだけどね…
…」

美夏

「ん? あれ? お兄ちゃん? そんな固まってど
うしたの?」

美夏 「え? あたしが、お兄ちゃんの」と大好きひて…
…言ひた…ひて…」

美夏 「…………ふ、ふにゃ、ふにゃあああああああ
ああ…」

美夏 「あつ、えつ、あつ……そ、それは! 言葉のあ
やつていうか、は、話の流れでポロっと出ちやつ
た、みたいな!…? ?」

美夏 「そ、その! お兄ちゃんとして大好き! という
か……あつ、いやつ、それも違わなくはないんだ
けど、ちょっと違ひていうか、もっと深い意味
合ひていうかあ……ひつ! ううつ! あ
うううう…」

「(小声でもじもじしながら恥ずかしがるよつに)
そ、そ、そ、うだよう……話のはずみで言つちゃつたけ
ど、あたし、お兄ちゃんの」と大好きだよ…

美夏 「もちろん、大切な隣のお兄ちゃんとしても大好き
だけど」

「小さい頃から、すぐ傍でいっぱい頑張ってる姿を見てきたもん！」

「あたしがこの学園を受験したのも、お兄ちゃんがここに赴任するつて知ったからだし、チア部に入つたのもお兄ちゃんが顧問してるからで……そ、それに！ 頑張つてるお兄ちゃんを可愛い衣装で応援してあげて、元気になつてほしいって思つたからだもん！」

美夏
「だから、だから！！！ あたしは！ お兄ちゃんのこと、一人の男の人として、ずっと前から、だい！ だいっ！！ だい好きだよ！！」

「（小声でもじもじしながら恥ずかしがるよう）（汗）ううううううううううもう、何で」「うなつちゃったのかな～……」

「（小声でもじもじしながら恥ずかしがるように）本当ならもつとロマンチックなタイミングで告白するつもりだったのに……失敗しちゃったよう…

「ふえ？ わ！ お、お兄ちやん！ ？ そんな急に抱きしめられると……」

「あ、ダ、ダメ！！ 今あたし顔真っ赤で……それに流れで告白までしちやつて……」んな恥ずかしい顔お兄ちゃんに見られたくない……」

「わわわ、ちわわ……えじわ、ちわ、ちわわ……わ

「お、お兄ちゃん！ きゅ、急に何するの！ ！ ついでに何したか分かつての！ ！」

「ニ、これ……だ、だつて！ そのう……キ、キス……だよう……？ しかも恋人がするようなエッチなやつ……」

「あう、あううう……今までどれだけ一緒にいても、どれだけお兄ちゃんに好き好きアピールしてもそつけなかつたのに、何で急に……」

「も、もしかして……お兄ちゃんもあたしの事好きでいてくれたの？ あたしの事妹じゃなくて女の子として見てくれたの？」

美夏

「今朝も本当は眠たいだけじゃなくって、あたしの事女の子として意識したから布団に隠れちゃった……とか？」

美夏

「むううう………… んむひー もひもひもう……」

「お兄ちゃんのバカバカバカバカア！！ あたしは、ずっと前からお兄ちゃんの事、好きで、好きで、だい好きで！！」

美夏

「ずっと、ずっと、あたしの事女の子として見てもらいたいように頑張ってたんだから！」

美夏

「先生と生徒なんて関係ない！！ 兄と妹みたいな関係だって関係ない！！ あたしは！ 先生であつてお兄ちゃんのあなたが、世界の誰よりも好きなの……」

美夏

「んもう！ これからは絶対にあたしから日を逸らせないし逃がさないんだから！！ んつ！ はむつ……」

美夏

「んんつ、んつ、ちゅつ、ちゅつ、ちゅぶつ……んちゅ……ちゅひつ、んぢゅるつ……」

美夏

「んじゅつ、ちゅう、ちゅつ……じゅるるつ……ぶああつ、はああんつ……」

美夏

「ちゅぱつー、ちゅつ、ちゅぱつーはむつ、好き
しゅきいんむつ、じゅつ、じゅるる
んむつ、れる、ちゅ、んちゅつ、ちゅうりうへ
うつじゅつ、ちゅつ……」

美夏

「ぶああ……はつ、はふう……お兄ちゃん……好
き、好きだよ♪……ずっと、子供のころから大好
きだったの……」

美夏
美夏
美夏
美夏
美夏

「あたしの為にビンな無茶な」ともしてくれて、優
しくて、たくましくて……」

「きつと、」の先お兄ちゃん以上に素敵な人なんて
いないだらうつて確信できるの……

「だから……スキ、スキスキスキスキ……大好きい
♪」

「ねえお兄ちゃん……もつとキスしよ? んつ
ちゅつゝ ちゅぱつ……ちゅつ……ちゅつ……
ん——ちゅつ……ちゅつ……はあ……ちゅぱつ

「……ちゅつ……」

「んちゅ、くちゅ……んんつ……れるれる
くちゅ……んふつ……はあ……ちゅむつ……
ちゅ……んちゅつ……ちゅぱつ、くちゅ……」

美夏
美夏
美夏
美夏
美夏

「んむう、んつ、ちゅるう……お兄ひやんとのキス
ずっと憧れてたきしゅ……んぢゅつ、ちゅつ
ふわあ……気持ちいいよう……」

美夏

「んひ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ、あゅふひー..
ちゅ、はむひ、ちゅ、ぎゅふひ、ちゅふふひー..
ん、んんひー んひ……れろひ、れろれろれろ…
…じゅふふひー ちゅふひ、ふはひー は、
はあ……」

美夏

「お、おにいひやんの、きしゃ……激しくて…
あひ……ちゅひ、ちゅ、ちゅふ、んちゅ……は
ふひ、んむひ……ちゅ、ぎゅふひ、んんひちゅ
ううううう……」

美夏

「んぱひ、ふわあ……? あひ、ひやんひ!
やひ、お兄ちゃん、そんなに強くあたしの事抱き
しめちや……」

美夏

「はううう……あひたかひ、あたしの事、いつ
ぱい求めてくれてるのが分かるよ……」

美夏

「お兄ちゅうん、もひと、もひとキス……、は
むひ……」

「ちゅ、くちゅ……んんひ……れろ……くちゅ……
んふひ……しゅき、ちゅむひ……くちゅ……
んちゅひ……しゅき、しゅきしゅき……大しゅ
き……ちゅふひ、くちゅ……」

美夏

「……ちゅふひ……くちゅ……ちゅひ……はあ
くちゅ……んふひ……れるひ……ちゅふひ、お願
い……睡、もひろ飲ませてえ……、大人のエツ
チなきしゅじつふあいしてえ……」

美夏

「…………んっ！…………んんっ！…………んちゅ…………くちゅ
ちゅふ…………れろれろ…………はああん…………ん
んっ…………くちゅちゅふ…………！…………大人のきしゃ、
気持ちいい…………♪…………んちゅう、ちゅう…………！」

美夏

「…………好き…………おにーちゃん、大好き…………ちゅ
ふ…………ちゅ…………ん…………んふ…………
ちゅ、ちゅふ…………あむう、ちゅ…………れろ、
れろれろ…………ちゅふ…………！」

美夏

「ん、ちゅ…………ふは…………は、はあ…………お兄
ちゃん…………あのう、その、ね？…………大きい、その…
…おちんぽ…………当たつてるよ？…………」

美夏

「もう、お兄ちゃんのHツチ♪」

「でも…………あたしもや…………お兄ちゃんに気持ちを伝
えられて…………両想いになれて…………」れ以上我慢な
んてできないよお」

美夏

「だから、ね？…………お兄ちゃん、このまま、Hツチ、
しよ？…………」

美夏

「あたしの大切な」」…………お、おまん」」も、今のキ
スでいっぽい濡れちゃって…………トロトロに蕩け
ちゃってるの…………」

美夏

「だからね？…………お兄ちゃん…………お兄ちゃんのおつき
くて逞しいおちんぽで…………あたしの…………美夏の初
めてを奪つてえ？」

美夏

「あ、お兄ちゃんのおちゃんぽ、びくびくいとこいの、分かるよ……♪」

「うん……お兄ちゃん……」のまま……きし……ん……あ……来る……おちんぽきちやうふ……はあ……あつ~」

美夏
「ああんもう！！ 告白も流れに任せちゃったし、
初エッチもタイミング逃しちやつたし……は
ううう……散々だよう……」

「ひゃわわー!? お、お兄ちゃん、また抱きしめた
りなんかして…………うう…………あたしも初エッチする
気満々で、おまんこもお漏らししちやつたみたい
に濡れちゃつてて…………我慢なんてできないよう…
…でもお兄ちゃんはこの後授業があるし…………さす
がに戻らないとだし…………うう…………」「

「ふえ？ 放課後チア部の活動後に体育用具室に来
いつて……えつ、そ、それつてもしかして……？」

美夏

「うん、うん！ 分かったよ！ 部活が終わるまで
あたしも我慢する！！ きっと期待してパンツび
ちょびちょになっちゃうと思うけど……我慢した
後の方がエッチは気持ちいいっていって
ね！！」

美夏

「お兄ちゃんも部活が終わるまでおちんぽ一人でシ
ロシロしちゃダメだからね……」

美夏 「絶対だよ？ 約束だからね？」

◆トライック03

美夏 「はい…… 今日の練習はそこまで……」

美夏 「はあ、はあ……んつ、みんなすりつい元氣で良
かったよ……」

美夏 「んつ……それじゃ、あつゝ んん……マットとか
ポンポンとか、残りのお片付けは、あつ……
はあつ、んつ……♪ あたしと先生がやつておく
から……皆は、先に上がつていい、よ♪」

美夏 「ふえ…？ あ、あはは……私？ えへへ、平氣平
氣♪ んつ、ちょっと疲れちゃつただけだから

「部長として個人的に先生と2人つきりで相談したい
こともあるからさ、はあ……あつ……んつ、ほ、
ほんと平氣だから……ほらほら、いっていって」

美夏 「はあ、はあ……行つた……かな？」

「うん、大丈夫そう、だね」

「そ、それじゃ… お兄ちゃん…！ 早く、」
「つか…」

「お兄ちゃん…！」

「ん♪ふ♪…ちゅ♪、ちゅ♪、ちゅ♪…んちゅ♪
…♪ふああ♪、さう♪…」

「お兄ちゃん…お兄ちゃん…もつとキスつ、
キスつ、して…♪」

「んじゅ♪、かゅ♪、かゅ♪…じゅるる…は
んむり、ちゅ♪、んちゅう…じゅ♪、
ちゅ♪…」

「ぶああ…は♪、はふう…お兄ひやんとのキ
スつ、気持ちよしをぎて…止められないよ…
…」

「もつり…もつり激ひく…あむ…ん…
くちゅ、んふう…」

「はふう…！ くちゅ♪、じゅるる♪…
はあ…！ ねふう、んむう…！」

「あ、やん…♪、ん…ん♪、はふう…！
…ちゅ♪…おこいひやん…あたしのおひよい
も触つてえ…ん…あん…！」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「あ、やん…♪、ん…ん♪、はふう…！
…ちゅ♪…おこいひやん…あたしのおひよい
も触つてえ…ん…あん…！」

美夏

「あむつ……！ くちゅつ、んむつ……お兄ちや
んの手が、チアの衣装の下から入つてきて……
ろつ、ちゅぱあつ！ あうう……お兄ちゃんの大
きな手……おつぱい揉みしだじてえ♪」

美夏

「ひやうつ……んぱう、むぱんぱうつ……じゅ
るつ、じゅるるつ……じゅふふつ……ふ
はつー んああ♪ おつぱい触られながらのき
しゅ……しゅきー……」

美夏

「はあ、はあ……あつ、やつ、んあつ！ は
むうつ！ ちゅつ、れろつ……れろれろ……お、
おにいひやん♪ 乳首もね……♪ あたしのHツ
チな勃起乳首もいつぱい触つてえ♪」

美夏

「あつ、あん……ら、らぬえ……「れしゃ」
いい！ んああつ！ 乳首いい！ あ、やつ！
ん、んんつ……ちゅつ、ちゅぱつ……」

美夏

「らぬえ♪ おつぱい揉まれるだけで、気持ちよ
しゅきてえ……馬鹿になつちやう、おバカに
なつちやうよ♪……♪ んむうつ……んあつ
♪ やつ、あ、あ、ああ！ はふつ！ ジゅ
ふつー れわつ、れわれわつ、じゅじゅつ……
……」

美夏

「れるつ！ ジゅふつ……ちゅぱふふつ……れふつ、
じゅりゅつ！ れわれわれわれ……んつ……
ちゅぱあつ！」

美夏

「あ、ああんつ……お兄ちゃん？ ビジしてキスやめちやうの……って、え？ 腕を上げて欲しつつ……」、「うかな？ つて、ふあつ！ お、お兄ちゃん…？」

美夏

「あ、だ、ダメ！ あたしの脇に顔近づけちゃだめえ！ 今すつ」汗かいてるシャワーもまだ浴びてないから…… 絶対匂うから…… 臭いからあ！」

美夏

「つて、あ、ひやああつ！ お兄ちゃん……そんなお鼻ならしながら嗅がないでえ……あたしの汗だくの脇嗅がないでえ……」

美夏

「ふえ？ 甘酸っぱくて、むわつてして……ずっと嗅いでいたい……つて！」

美夏

「い、いや！ いやつ……お兄ちゃんのバカ！！ ハッチ！！ 変態！！！ ど変態！！！」

美夏

「そんな感想誰も求めてないつ！！ ……て、ひやわわわわわつ！？」

美夏

「い、れつ！ 脇舐められて……あんつ！ やつ！ くすぐつたい……ひやつ！ んあ、

あ、あああああ……」

美夏

「いやあ！ お兄ちゃんの舌、あたしの脇をペロペロしてえ……ひうつ！？ 脇汗、舐めないでえ……ちゅうちゅう吸わないでえ……♪

「んあつー、やつ、はあ、はあ……んあつ、汗だくの脇を……そんなん、ワンちゃんみたいに必死に舐めるなんてえ……あうんつー」

「あ、やんつー、ひやつー、んああー、おつぱいと脇い……ねつとつ舐められちゃ……あうつー、敏感になつて……鳥肌立つちやうつー」

「はふつ、くつ、んんつー……ダメシ……」んなのダメ……ダメなのにい……お兄ちゃんに脇ペロペロされるの……気持ちいいのお……♪」

「んひやつー、はあ、あつ、あんつ♪、んああ♪、気持ちいい♪、脇からお兄ちゃんの熱感じられてくすぐつたくてえ♪、ねえ、お兄ちゃん……♪、もつとペロペロしてえ♪、あたしのエツチでスケベな脇、もつと愛してえ♪」

「あつ、ふわあつー、脇の奥う♪、お肉とお肉の間ほじられてえ♪、ペロペロされてえ♪、いいよおお♪」

「あたしの、くつわい濃厚でエツチな脇汗え……ぐちゅぐちゅになるまで、じつぱい舐めてえ♪、もつともーと気持ちよくしてえ♪」

「んあつ、ひやつー、ああん！、お兄ちゃんの舌あ！、もつと激しくなつてえ！、んあつ、あ、あたし、感じすぎて、おまんこからお汁止まらないよつ……♪」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「せりふ、じごの!! 脇組められるのじご
のお……、お兄ちゃん、お兄ちゃん!! お兄
ちやああああん!!」

美夏

「はあっ、はうん！ ふあっ、はあ、あああっ！！
そんな、脇舐めながらおっぱいも……あ、ひ
ああんっ！ これっ、もうだめ！ だめえええ
え！！」

美夏

「はあん、くるつ……もつきちやううう！ ん
はつ、あああんつ、これつ、もうイクッ！ 気持
ちよすぎで、あつ、あつ、イッちやうのお
お……」

美夏

美夏

「んっひやああああああああああああああああああああ！」

美夏

「あふあああああああつ、やあー、これ、ダメーー、気持ちよしゅぎでおまんこ吹いちゃつてえ！ おもらしだめえーー、止まんないいいいーー！」

美夏

「ああああああ、んああ、ハアハア、しゅ」「いいい
……脇でこんな気持ちよくイッちゃうなんてええ
……はあ、はあ、変態さんだようう……」

美夏

「はうん……はあ、あふう……おまんこ」からお汁止
まんない……パンツがびちょびちょになつちやつ
て、太ももまでも垂れちゃつてるよう……」

「んもひ、お兄ちゃんつたらあ……まだ脇に顔うず
めて……あひ、あんつ、そんな、まだイツたばか
りで敏感だから、鼻息吹きかけないでえ……」

「ひやうひ、まだおまんこ止まんない……おまん
こお……気持ちいいの止まんないよう……」

「はふひ、はあ、はあ……んつ、ふあああ……お兄
ちゃん、もひ一回キス、してえ……」

「んんつ、んつ、ちゅう、ちゅう……だひゅう……
んぢゅ……ちゅうひ、ちゅう……」

「あむひ、ちゅう、ちゅう……だひゅう……じゅりゅ
……はあ、んむひ、ちゅう、ちゅう……れるひ、
ん、ちゅう……じゅうひ、ちゅう……」

「ふああ……お兄ちゃん、もひ我慢できなじつて顔
してる……おちんぽも、カチカチで、おまんこ」に
押しつけてられちゃつてぬう」

「えくく、いじよ、お兄ちゃん。あたしも、もひ我
慢できないもん……」

美夏

美夏

「お兄ちゃんの、おつきくて逞しいおちんぽで……
美夏の、エッチで厭らしい発情おまんこ、いつぱ
い犯して……♪ 精液、子宮の奥に沢山びゅ
びゅ～して♪」

美夏

「わっ、わっ！ お、お兄ちゃん……えへへ、こんな
風に押し倒すなんて、お兄ちゃんもすっかり発情
してくれて、あたし嬉しい……」

美夏

「ふあああ、おちんぽ、今まで見たことないくらい
勃起してる……先っぽも真っ赤に膨れてて、今に
も射精しちゃうなぐら～……」

美夏

「ね、お兄ちゃん……あたしのミースカの下……
さつきの脇舐めとキスでぐちゅぐちゅになってる
パンツ……脱がせて♪」

美夏

「はうう……ついに、あたしのおまんこ見せちゃつ
た……♪」

美夏

「ううう……お兄ちゃんの視線を感じるよ……
やあ……おもいししたばつかで、すつ～～濡れて
るからあんまりジロジロ見ないでえ……」

美夏

「ほ、ほり～ いつまでもおまんこ見てないで、
ね？ しょ？ 初めてのセックス……♪ あたし
の処女おまんこ、お兄ちゃんのおちんぽで奪っ
てえ♪」

「あ、お兄ちゃんのおちんぽ、おまんこに来てる……あ、ああ、ああ……」「

「あつ……せり「ハハハハ」ンシ……」

「んはッ……ああ、ハッ、ひやつ！　お、おまんこにい……！　おちんぽお……きつたああ！　やうとお、あたしのおまんこ処女つ、お兄ちゃんに捧げられたよう……」

「んはつ、あうつ……初めては痛いって聞いてたけど……今日一 日焦らされたのとお……せつきいかされたからか……全然苦しくなくてえ……むしろ、入れられただけでイッちやうべりい、気持ちいいよう」「

「はあ、はあ……お兄ちゃんはどう？　あたしのおまんこ気持ちいい？」

「つて、お、お兄ちゃん？　おちんぽ入れたまま固まっちゃつてビビしたの？」

「ふえ？　もうダメ？　我慢できない？　つて、え、えつ？　う、嘘……おちんぽ、おまんこの中で震えだして……も、もしかして、え、えつ？　きやつ、きやあつ！？」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「あ、ああ……！」、「これ……精液あたしの子宮に流れ込んできて……お兄ちゃん、おまんこにおちんぽ入れただけでイっちゃったの？ お兄ちゃんって早漏さんだったの？」

美夏
「あ、わづ、わづ！？ お、お兄ちゃん！ そんな
しょんぼりしないで！ 大丈夫、大丈夫だか
ら！」

「ほら、お兄ちゃん、いい」、いい」……大丈夫、
大丈夫だよ♪」

「あたしのおまんこで気持ちよくなつてくれたんだ
よね……ならあたしはとっても嬉しいよ♪」

「だつて、お兄ちゃんが我慢できないくらい氣持ちよくできたつて事だもん♪ それに、初めてのセックスで躊躇出しまでしてくれるなんて、幸せすぎておかしくなっちゃいそうだよ♪」

「だからね？ おまんこ」にいつぱいぴゅつぴゅしてくれたお兄ちゃんは、えらいえらいなんだよ♪

「ほら！！ えらいえらい、おちんぽいっぱい
ぴゅ～ぴゅ～出来てえらいね～」

「あつ……んもひ、お兄ちやんつたらひ、ぴゅつ
ぴゅしたばかりなのに、またおまんこの中でおち
んぽ大きくなつてきたよ？」

「えぐくら やつはつ、お呪わやつのねかくはね
う」「わるだね」

「ほり、」のままおまんこをうつして絞つてあげるから、もつともへつて、気持ちよくなつて……ね♪

「あっ、ああああああんっ…………お兄ちゃんの
おちんぽお…………また来たあ…………」

美夏 「んはああああつ……ああああつ、はふうんつ！ あ、あ、あ、んああつ！ ひあつ、あああああつ、ああんつ！」

「はひいんつ！ んんつ、はうんつ……気持ち、いいよう！ 声我慢できないのぉ！」

「お、お兄ちゃん！ あたしのおまんこ、気持ちいい？ ハツチで厭らしいおまんこ、気持ちよくなってくれてる？ 」

美夏

「あつ、あ……ん、あつ、ひやあつ！
んううう、おちんぽ深じいい！そ」お……
まん！」の奥、下腹！感じちゃう！エッチな
お汁……溢れちゃうよお…」

美夏

「あつ、やあ！ はつ、はつ……お兄ちやん、腰振
り激しくなつてきて……うん、やうだよね♪
あ、あつ……もつと気持ちよくなつて、1つになつ
て溶け合いたいもんね♪」

美夏

「はつ、はつ……い、いじよ♪ 1つになつちゃお♪
じつぱいおちんぽパンパンしてあたしの全部お
兄ちやんのものにしちゃつていじよ♪」

美夏

「あ、あんつ、んつ、はあ、はあ、頑張つておちん
ぽパンパンしてくれるお兄ちやん、素敵だよ♪…
…♪」

美夏

「んあつ！ あ、あ、あ、ああ！ はあ、ふつ！
ふつ！ んにゅうつ！ はあ、やつ……あ、ん
あああああ……」

美夏

「はふつ……はあ、はあ……え、えくく……♪
そんな、必死にエッチしてくれるお兄ちやんに、
はつ！ ひううんつ！ あつ、はあ、特別な応
援つ、してあげるね……♪」

美夏

「はあ、はあ……それ♪ フレッ、フレッ、おにい
ちゃん！！ 頑張れ、頑張れ、おにいちゃ
ん！！」

美夏

「えへへ、ちょうど部活後でチア衣装を着てるんだもん……いっぱい応援してあげるから……ん、」のままおちんぽ頑張って♪

美夏
—（厭いじく富能的に囁くよう）フレツ、フレツ、
お・ち・ん・ぽ♪ 究張れ、頑張れ、お・ち・
ん・ぽ♪

美夏
——（厭がつぐ、盲能的に囁くおにに）負けるな、負ける
な、お・ち・ん・ぽ♪ 究張れ、頑張れ、お・
ち・ん・ぽ♪

美夏
「はひいいいつ……あつ、んはああ……ああ、お兄ちゃんのおちんぽ、まだ大きくなつて……」

「んひうつ、腰の動きも早くなつて！ んあつ！ あうう、お兄ちやん激しくて気持ちいいよう♪」

「あ、はひつ！ し、子宮う、思いつきり突かれて
おっぱいも、揺れてえ……！」

美夏
「んんっ、あああああああっ！！」「これが、
せつくしゅう……！ 大好きな人との、ラブラブ
せつくしゅううう……！」

美夏

「想像してたのより、はあ、はううう！　ずっと、ずっと気持ちよくなっちゃう。幸せいっぱいだえ♪
素敵でえ♪」

美夏

「これ好きい！　大好きになっちゃううううう！　ハ
ッチ大好きな厭らしいおまんこになっちゃう
よおお！…」

美夏

「お兄ちゃん、お兄ちゃん！　お兄ちゃん…！　お
兄ちゃんああん…！…！　んあああう！　はう
ううううう…！…！　あたし、もう耐えられない…！　お
まんこイグラ…！」のままイッちゃう…！　イッ
ちゃうのぉお…！」

美夏

「あああう、なかあ…！…！　あたしのおまんこの中
にいっ…ひやう！　ひやうひやうんう…！　はう、
はあ…！…せふううう、んうう、とろりとろの発情
おまんこにいっ…！」

美夏

「お兄ちゃんのおちんぽミルク、いっぱい出っ
てえ！　お兄ちゃんのおちんぽで、あたしの「こと
バカにしてえ…！　気持ちよくなっちゃえ…！」

美夏

「あう…　あう…　あう…　あう…　やあ…　は
ッ！　んあう…　ひやああう…！　あ、ほんとイク！
ああう、イッちゃううう…！…おまんこイ
グうううう…！」

美夏

「おまんこ、イク！　イク…！　イク…！　イク
イクイクイク…！」

「あつひいいいいいつ……」 いぐうつ！ あ、

美夏
「おまんこのおぐうふ
子宮までお兄ちゃんのみ

「おまえのねじり、子宮までお尻かやんのな
うやく、あいつのね……、中止し……、
おまえかわいがり、飯食かじこむおおむ
せい、せひねり」

「熱くて、濃いのでこつぱいぢ……おまん」蕩け
ちやうわうつ……おまん」がお兄ちゃんの形覚え
ちやうわうのねおまん」

「はあ、はあ……ふあああああ♪ お兄ちゃんの顔
も、すつ「ぐ蕩けてて……えへへ、一緒にイケた
みたいで、本当に良かつた♪」

「ふえ？　えへへ、もしかして膣中出ししたこと氣にしている？　別に大丈夫だよ……♪　今日は安全日だし、膣中出ししちゃうくらいあたしのおまんこに夢中になつてくれたつてことだもんね♪」

美夏 「ん……そ・れ・にい♪」

「もし、あたしが孕んじゃつたら、そのままお兄ちゃんと結婚すればいいだけだもん♪ だから、いつでも生體中出し、していいよ♪ ね♪ お・に・い・ちゃん♪」

美夏 「えへへへ♪ 困った顔してる♪ でも、冗談何かじゃないからね♪」

美夏 「お昼休みにも会つたでしょ♪ 絶対お兄ちゃんのことは逃がさないで♪」

美夏 「お兄ちゃんがどこに行つても、絶対追いかけて逃がさないんだから♪」

美夏 「んつ、しょり、と……それじゃ、あたしもお兄ちゃんも、汗やエッチなお汁でベトベトになっちゃつたし、チア部のシャワー室に行つて洗い流そつか」

美夏 「ぶぶ、せつかくだし、久しぶりにお兄ちゃんの背中、流してあげる♪」

◆トラック04

美夏 「んつ、ひやああ！ シャワー気持ちいい♪♪♪」

「部活で汗かいてそのままセックスで、全身汗とか愛液でドロドロだったし、きちんと綺麗にしないとだもんね♪」

美夏

「ほら、お兄ちゃんも今更恥ずかしがつてないで
もうとにかくち来て？せつかく2人つき合なんだ
し、体洗つてあげるから♪」

美夏 イソープを手に塗つて……」

美夏 「うーん、でもせつかく恋人同士になつたのに、普
通に洗いつゝるのは面白くないなあ……」

美夏 「あー、そうだ！えへへへ、いい事思いつい
ちやつた♪ ん、しょ……ボディソープをおっぱ
いに塗つてえ……えいー」

美夏 「びびびびび……可愛い妹のおっぱいスポンジは？
さつきセックスしてた時に思ひつきり揺れてた巨
乳だよー？ ふにふにして柔らかいでしょ♪」

美夏 「」のままあたしのおっぱいで、お兄ちゃんの胸板
「ハシハシ」して綺麗にしてあげるね♪」

美夏 「ん、しょり……えへへ、おっぱいを、「」んな感じ
に、上下させてえ、谷間に泡を作つてえ……ちや
んと綺麗に……あ、ひゃん♪」

美夏 「あつ、「」あんね？お兄ちゃんの乳首とあた
しの乳首が擦れちやつて……変な声が出ちやつた
……」

美夏 「はあ、はあ……んひ……」
「お兄ちゃんの逞しい体がおひばりからぬわって……
せううう、お兄ちゃん、かい！」
おもかるよお
♪」

美夏 「本当に、世界で一番素敵なあたしだけのお兄ちゃん……♪
好き、大好き♪……♪」
「お兄ちゃんの為なら、あたし、何でもするし、何
でもしてあげたくなつちやうの……♪」

美夏 「だから、あたしにしてほしご」とがあつたら何で
も言つてね？ んひ、このおひばりスponジも、
お兄ちゃんがしてほしいなら、んひ、あつ♪ 每
日だつてしてあげるんだから♪」

美夏 「ん、しよう……ん、しよう……はあ、そつ！
はあ……ううう、お兄ちゃんは持ちよれり♪」

美夏 「耳まであかくなつちやう♪
あたしのおひば
い、もつと楽しんどう♪」

美夏 「(耳穴に息を吹きかける感じで)ふううううううう
うううううううううううううううううううううううううう

美夏 「あははは、お兄ちゃんつたら、うひやう、だつて
♪ 女の子みたいな声出しあやう♪
可愛い

「えへへ、『お尻』めんつて、ついお耳が可愛
くって意地悪したくなつちゃつたら、つてお兄
ちゃん、今ビクつてした時に前掛け落としちやつ
てるよ~」

「仕方ないからあたしが拾つてあげる♪ ……つて
……あ♪」

「わつ、わつ、お兄ちゃんつたら……わつきあれ
だけおまんこにびゅうびゅしたのに……また勃起
しちやつて……」

「もー、お兄ちゃんのおちんぽつて絶倫さんなの
かな? えへへ、おつたぐ、手のかかるお兄ちゃん
んだなあ♪」

「ん、いいよ♪ お兄ちゃんのおちんぽが大きくなつ
ちやつたのはあたしのせいだし……責任を
もつてお兄ちゃんのおちんぽ、びゅうびゅせつ
あげる♪」

「ふああああ♪ お兄ちゃんのおちんぽ、やつぱり
大きいねえ♪」

「すんつ、すんすんつ……はふう……♪ おちん
ぽ、愛液と精液の香りが混ざつて……あん♪
とつてもヒツチな匂いだよ♪」

「それじゃ、お兄ちゃん♪ 今からあたしのお口
で、お掃除フリ♪ してあげるね♪」

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「ああ……むづふ んつ、ちむつ、ちむづつ……
れろれろおひ……ぴちやひ、ぢゅひ、んぶひー。」

「れろつ、ちゅぱつ、れろれろれろれろつ……ん、
どう？ おにいひやん？ ひもちい？」

「んふふひ、おじじひやんのおひんぼ、といても濃
くつれ、おひひくじゅ……、れりり、れろれ
るり！ ちゅぱりー！」

「んつ、ぶはつ、おちゃんぽの先つぽ……段差のど」「ろに白いのたまつててえ……これつてチンカスつて書うんだよね？ エツチな本で読んだ事ある……」

「」のままにしてちやおちんぽ病氣になつちやつか
もしれないから……ん、じゅつ！ じゅぶぶぶつ
……！ じゅぶつ！ ちゅぱつ！ はあ、はあ……
……チンカスも、しつかり舐めてえ……ん、じゅ
ぶぶつ！ 綺麗にしてあげるね♪

「はあむ！ ちゅつ！ ぴちやぴちやつ！ んつ、
ちゅつ、れろつ、れろれろつ……ちゅふふつ、
ちゅつ！ ちゅうううううう、ちゅふつ！」

「あつ、ひやんつゝ おちんぽ暴れちやだめえ♪
はむつ！ れろつ！ ちゅつ、ちゅふふつ、れ
るつ、れろれろれろれろ……！ じゅりゅ
りゅつ！ じゅぱつ！ はあ、んつ……びくびく
脈打つて、とつても氣持ちよれや！」

美夏

「「」のまほ、もひと奥まで咥え「」と、お口まほ「
でじつぱいぱせりぱせりあがるね♪」

美夏

「はふり！ ジョブ、ジョリウ♪…… ガガバ
ふり、ンジウリ！ ちゅう、ちゅぱり！ んんつ
……ちゅう、ちゅくつ…… わなぱんぱり、ちゅ
ぱ、んちゅ…… ぴちゅ、くちゅ…… んん
…… んぱふり♪」

美夏

「んむうり！ そり！ ん、んんんり…… ん
ちゅう！ ジョルジジョルリ…… ジョブ、ジョ
ぶぶぶ…… れちゅ、れわり、ぢゅぱん……
ちゅう、ちゅぱり、はあ、ん、ちゅ♪」

美夏

「はあ、はあ……サセ！」わやうてえり…… 口の中で
れろれろしてえ…… んぢゅうり…… ガガリ……
れろり、れろれれれれれれり…… ら、ちゅう！
ぴちゅう、んぱふり、ジョバババ、んはああ
……」

美夏

「たくましくてえ、立派なおかんぼお…… すずり、
れろり、ちゅはう…… あうう、味濃くつてえ♪
チンカスおうじゅう、美味しじゅう……♪」

美夏

「ん~ちゅ~、かゅ~、じゅ~ふふ~、ん
ふ~、ん~、ん~、ん~、ん~、ん~、
ん~、ん~、ん~、ん~、ん~、ん~、
ふ~、じゅ~、ちゅ~、れるふちゅ~、ちゅ
ふ~、ちゅ~、んちゅ~、あゅ~わ~、
ちゅ~、んちゅ~、じゅ~、
ふ~、ん~ふ~、ふは~、」

美夏
「ん~、はあ、はあ~」
咥えてたら、あたひも、また変な気分になつ
ひや~て、おもんこ発情しちやう、おかしく
なつちやうね~」

美夏
「あむ~、そ~、れりをる、ちゅ~、れ
あ~、あ~、はむ~、かゅ~、じゅ~
う~、じゅ~、れる~、れる~、れる~、
ん~ちゅ~ふ~」

美夏
「ん~、んむ~、お兄ちゃんのおひんぽビクビ
ク~て震えて、もう出ひや~、ぴゅ~ぴゅ~
ひや~のお~」

美夏
「いこよ、出ひ~、あたしのお口に、お兄ちゃん
のおねねんぱみ~、いぱい出ひ~」

美夏

「んっ！ んんんんんんんんっ…………？？？
むううう！！ んぶはっ！！ んつぶうう
うううっ……」

「あむ♪ふいりうひ、んんうーーー、出でうむいりうーーー
お兄ひやんの、ミルク……♪♪♪♪う、ひええ
えー！ んぶうーーー！」

美夏

美夏

「んー……んじゅりゅ、じゅるるる……じゅりゅつ
ん、んちゅううううううう、」
「くつ……」「くつ……」「くつ……」「くつ……」「くつ……」
はあ、はあ……ふりりりりりりりりりりりりりりりり
れろれろ、かわい……んちゅう、ちゅう……
ちゅぱふ」

「え、えへへへへへへへへへへへへへへへへへ
部飲んじゃつた」

「んつ、んん……精液まだ喉にからみつじてき
……」「くつ、」「くつ……」「くつ」「くつ」「くつ
……はああああああああああ」

「はふう、お兄ちゃんの香りが全身を巡つて
ああん、体の内からお兄ちゃん色に染まつてゐ
みたいで幸せすぎるよーーー」

「あ、お兄ちゃんのおちんぽも小さくなつて……え
へへへへ、今日は一日お疲れ様だね」

「それじゃ、おちんぽもすりきりして綺麗になつた
し、外が真つ暗になる前にシャワーで流して帰
ろつか、お兄ちゃん」

「えへへへ、何だか今日はすりく大変な一日だつ
たね」

◆トマソク05

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

美夏

「朝お兄ちゃんを起こして、お昼休みにはお兄ちゃんに告白して……今思い返しても恥ずかしくなっちゃうよ……」

「でも、そのおかげでお兄ちゃんと両想いになれて、放課後はそのままチアリーディングの恰好で初エッチして……一緒にシャワー浴びて……」

「つて、なんだか、改めて思い返してみると、とても付き合つて1日田の恋人がするやうな」とじやないよね、これ……」

「すつ」とい勢いで大人の階段踏み越えていつちゃつ

て……あうう……絶対やりすぎたよ……」

「ん、でも、今までお兄ちゃんへの想いをずっと我慢し続けてきたんだもん……」「れくらいエッチで溼らになつても仕方ないよね！」

「だから、これからは今までとは比にならないくらいお兄ちゃんに積極的に迫つちゃうんだから……」

「これから先も、ずっと、ずっと……つと……一緒になんだから！ 覚悟してよね、お兄ちゃん♪」

- ◆おまけトラック06 左耳舐めループ
- ◆おまけトラック07 右耳舐めループ
- ◆おまけトラック08 両耳舐めループ